



かがわクリニック通信

今月のテーマ

パーキンソン病

びょう

【どんな病気なの？】

脳の幹にあたる中脳黒質という部分の神経細胞が変形することで、ドパミンという物質が減ることによって起こる神経変性疾患です。

パーキンソン病は初老期(55-65歳)に発症することが多く、男女差はありません。国内では10万人あたり100~180人の方がこの病気にかかっていると言われています。パーキンソン病を完全に治す治療法はまだありませんが、薬物治療によって進行を遅らせることができます。

パーキンソン病の起きる仕組み

中脳黒質緻密層には神経メラニンという黒い色素を含む細胞があります。この細胞は黒質から線条体という部分に線維を送っていますが、この神経が変性すると線条体でつくられるドパミンの量が減少します。ドパミン不足により様々な運動障害が起きます。

パーキンソン病の症状

- 1. 振戦(ふるえ) 通常は安静な状態にした片方の手で起こる(安静時振戦)である
しばしば、小さな物体を転がすように手を動かす(丸薬丸め運動)
- 2. 筋強剛(こわばり) 筋肉がこわばり、動くことが困難になる
- 3. 姿勢反射障害 姿勢が前かがみになり、前方や後方に倒れるようになる
転びそうになってもさっと手をつくことができない
- 4. 前屈・前傾姿勢、仮面様顔貌



黒質-線条体以外にも様々な神経細胞が変性をおこし、非運動症状を起こすこともあります
例: 嗅覚障害、便秘、起立性低血圧、うつ、不眠、認知症

少しでも気になる症状がある方は、
ご相談などお気軽にお声掛けください。

パーキンソン病の診断

以下の4つの基準を満たす場合、パーキンソン病と診断されます

- ① パーキンソン症状がある
- ② 脳CT又はMRIに特異的異常がない
- ③ パーキンソン症状を起こす薬物等への暴露がない
- ④ 抗パーキンソン病薬にて症状に改善がみられる



パーキンソニズムとは？

脳出血、脳梗塞、脳腫瘍等の脳疾患でパーキンソン病以外にパーキンソン症状を示す状態のこと

自分のため、家族のために
早期発見！

健康診断

年一度は健診を受けましょう！

パーキンソン病の治療

症状の程度、日常生活の不自由さ、職業を勘案して治療を開始します。リハビリテーションも有効です。第一選択薬は、レボドパ製剤かドパミン受容体作動薬かMAOB阻害薬です。

レボドパ製剤: 運動症状の改善が速やかで最も効果が強い

ドパミン受容体作動薬: 作用時間がレボドパより長く、進行した症例にもある程度効果がある。

MAOB阻害薬: ドパミンの分解を抑制する。単剤で使用されるものもある。



@KAGAWA_CLINIC



Instagram

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
15:00~18:00	○	○	×	○	○	×	休診

詳しくはWEBでご覧頂けます。

かがわクリニック

検索



